

GMB 株式会社

2019年3月期第2四半期 決算説明資料



(電動ウォーターポンプ)

証券コード 7214

<https://www.gmb.jp>

注) 本資料中、当社の業績等に関わる数値は、表示桁数未満切捨て記載しております。
また、「親会社株主に帰属する(当期)純利益」を「純利益」として表示しております。



- I. 2019年3月期上期実績
- II. 2019年3月期通期見通
- III. 今後の対応

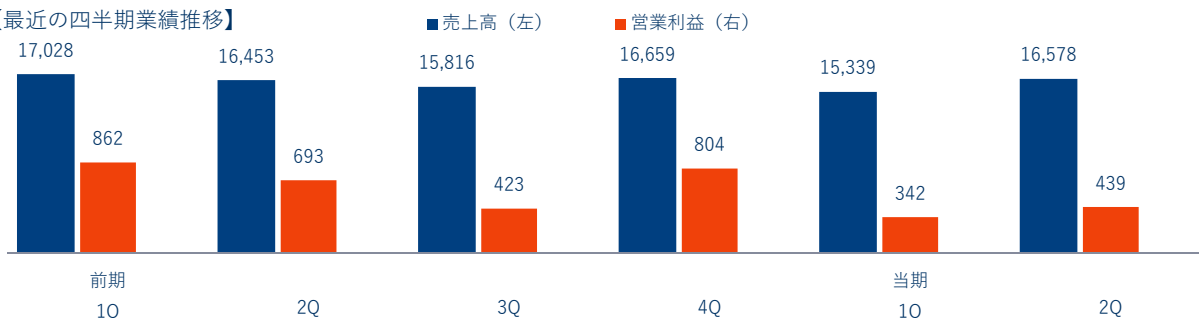
2019年3月期1-2Q 損益実績



(単位：百万円・%)

	前期1-2Q累計		当期1-2Q累計		前期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	増減額	増減率(%)
売上高	33,482	(100.0%)	31,917	(100.0%)	▲1,564	(▲4.7%)
売上総利益	6,055	(18.5%)	5,407	(16.9%)	▲647	(▲10.7%)
営業利益	1,555	(5.1%)	782	(2.5%)	▲773	(▲49.7%)
経常利益	1,725	(5.1%)	981	(3.1%)	▲743	(▲43.1%)
純利益	950	(2.8%)	635	(2.0%)	▲314	(▲33.1%)
EPS(円)	182.31		121.92			

【最近の四半期業績推移】

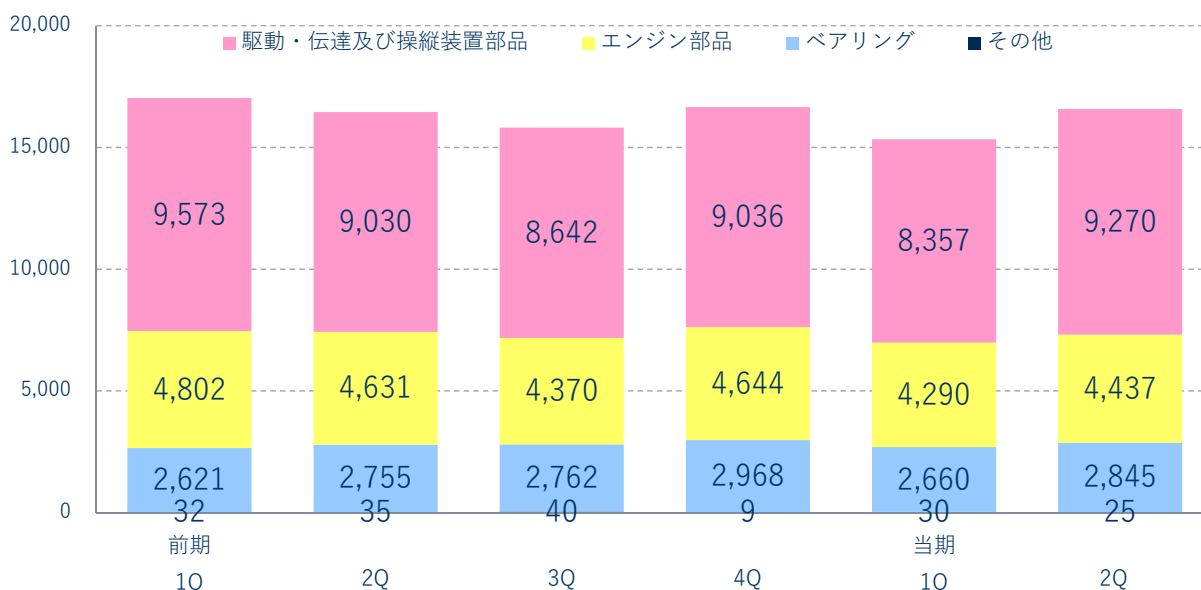


- 3 -

売上高の品目分類別推移 (四半期毎)



(単位：百万円)



駆動系では、日本の欧州向け新車用ユニバーサルジョイントが増加する一方で、韓国・中国の新車用A T部品が減少。エンジン部品では、韓国での電動ウォーターポンプが増加した一方で、米国、日本などでウォーターポンプが減少。ベアリングは、米国のテンショナー・アイドラー・ベアリングの落ち込みを、日本・韓国の販売でカバーし、前年比で増加。

- 4 -

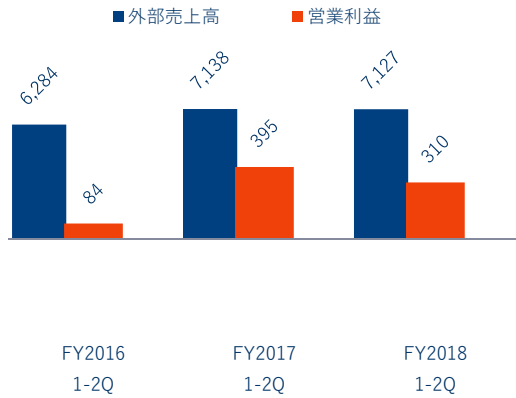
セグメント実績推移① 日本・米国



※セグメントはグループ各社の所在地による

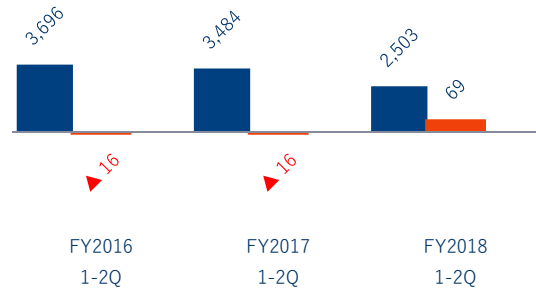
(単位：百万円)

日本



欧州向けのユニバーサルジョイントが好調に推移するも、東南アジア向けなどのウォーターポンプが苦戦し、前期並み。また、想定以上の円高ユーロ安による輸出採算の悪化などにより、減益。

米国



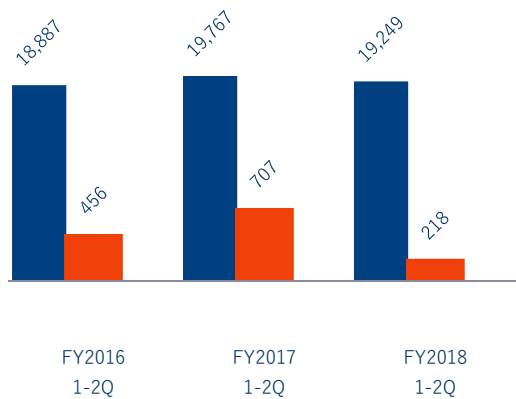
大口取引先からの受注減少によって減収となるも、人件費などのコストダウン努力によって黒字転換。

セグメント実績推移② 韓国・中国



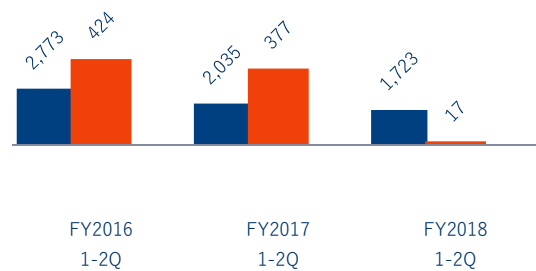
(単位：百万円)

韓国



電動ウォーターポンプや補修用ベアリングの販売は伸びたものの、主力のバルブスプールなど駆動系部品の販売減少が響き、前年比では微減。加えて、販売価格の変動や人件費増加をコスト削減努力で補いきれず、減益。

中国



欧州向けユニバーサルジョイントの生産は順調に推移した一方で、中国国内の新車用部品の販売減少が想定以上となり、鋼材価格の上昇や元高ドル安による採算悪化も重なり、減収減益に。

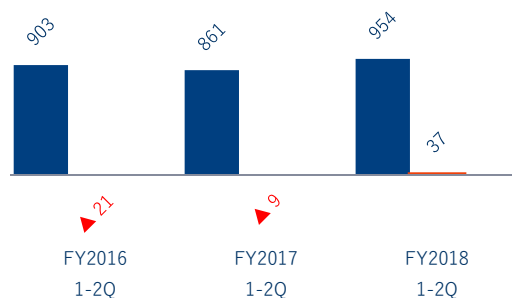
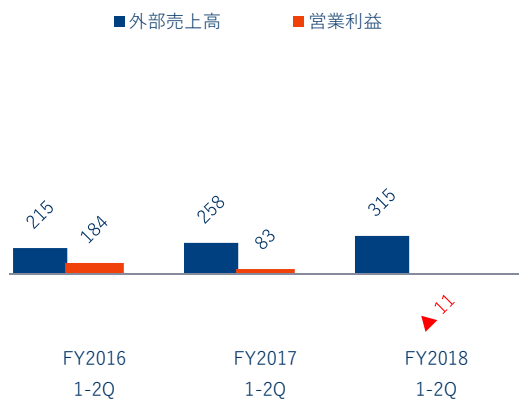
セグメント実績推移③ タイ・欧州



(単位：百万円)

タイ

欧州



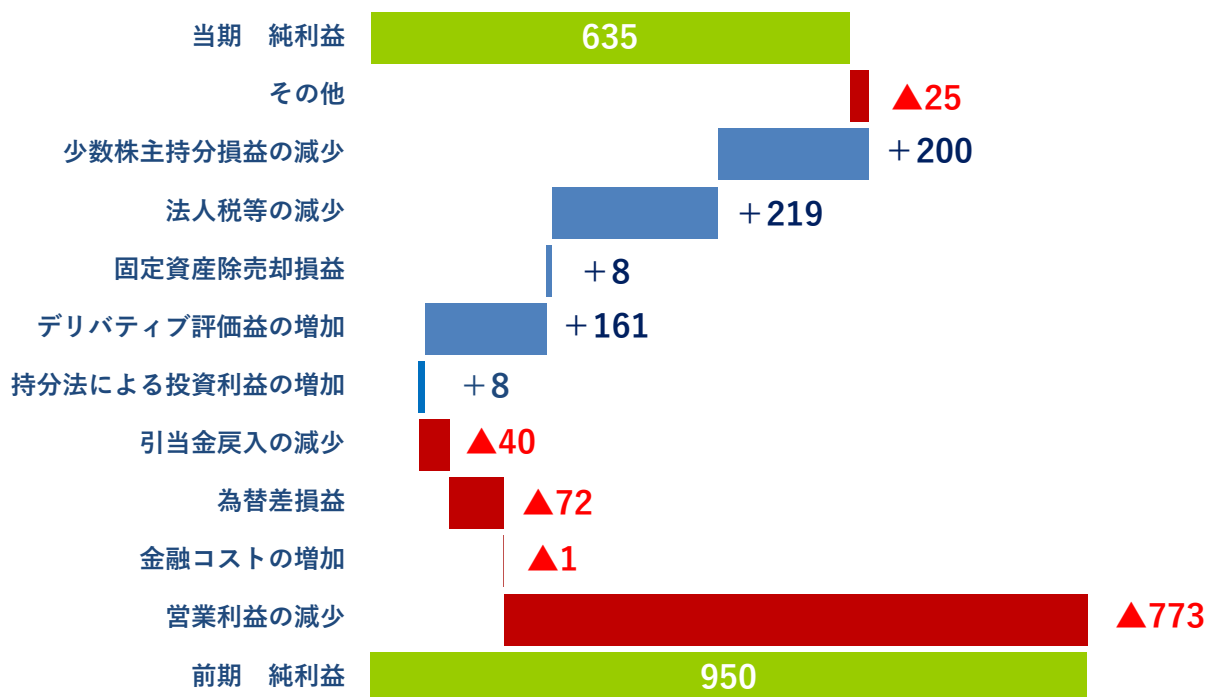
新車用部品受注により、タイ国内販売は増加。メインの補修用ウォーターポンプの生産量減少や、日本向け円建輸出取引における円安パーツ高の影響による採算が悪化し、減益。

ルーマニア工場、ロシア工場ともにウォーターポンプの販売が順調。加えて、コスト改善が進み、黒字転換。

営業利益以下の増減要因 (1-2Q)



(単位：百万円)



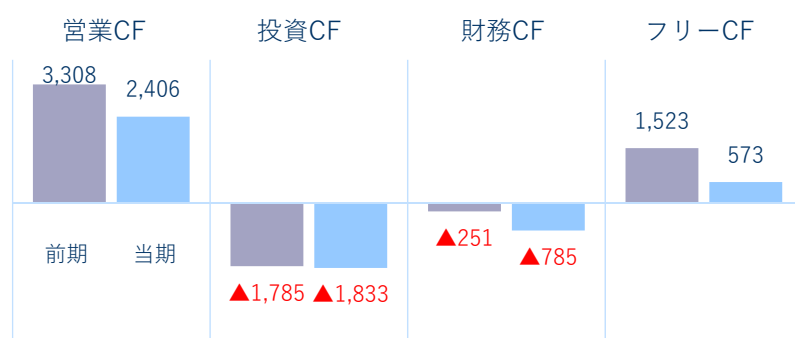
キャッシュ・フローの実績（1-2Q）



	前期	当期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	3,308	2,406	▲902
投資活動によるキャッシュフロー	▲1,785	▲1,833	▲48
財務活動によるキャッシュフロー	▲251	▲785	▲534
フリーキャッシュフロー	1,523	573	▲950

【 当期の主な内訳 】

● 営業CF	
税金等調整前利益	973 百万円
減価償却費	1,719
売上債権の増加	▲70
たな卸資産の増加	▲858
仕入債務の増加	554
法人税の支払額	▲146
● 投資CF	
設備投資	▲2,016
固定資産売却	21
● 財務CF	
借入金の減少	▲594
配当金の支払額	▲191



- 9 -



I. 2019年3月期上期実績

II. 2019年3月期通期見通

III. 今後の対応

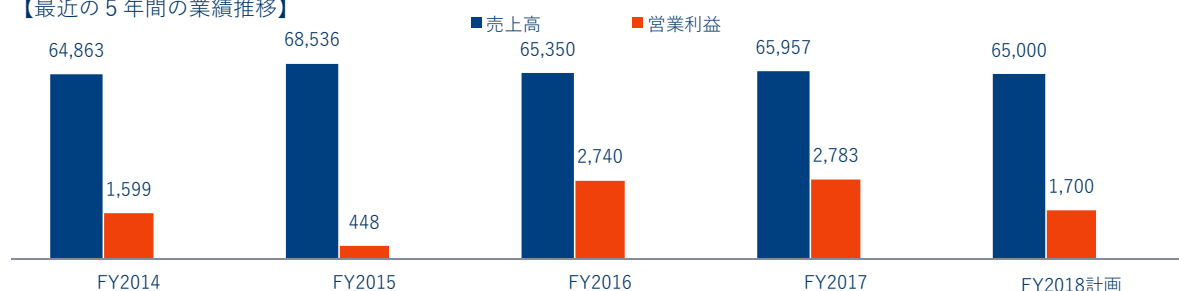
2019年3月期 損益計画



(単位：百万円・%)

	FY2017	FY2018			前期比
	(通期実績)	(1Q-2Q実績)	(3Q-4Q計画)	(通期計画)	
売上高	65,957 (100.0%)	31,917 (100.0%)	33,083 (100.0%)	65,000 (100.0%)	▲957
営業利益	2,783 (4.2%)	782 (2.5%)	918 (2.8%)	1,700 (2.6%)	▲1,083
経常利益	2,853 (4.3%)	981 (3.1%)	519 (1.6%)	1,500 (2.3%)	▲1,353
純利益	1,742 (2.6%)	635 (2.0%)	315 (1.0%)	950 (1.5%)	▲792
EPS(円)	334.42	121.92	-	182.30	

【最近の5年間の業績推移】

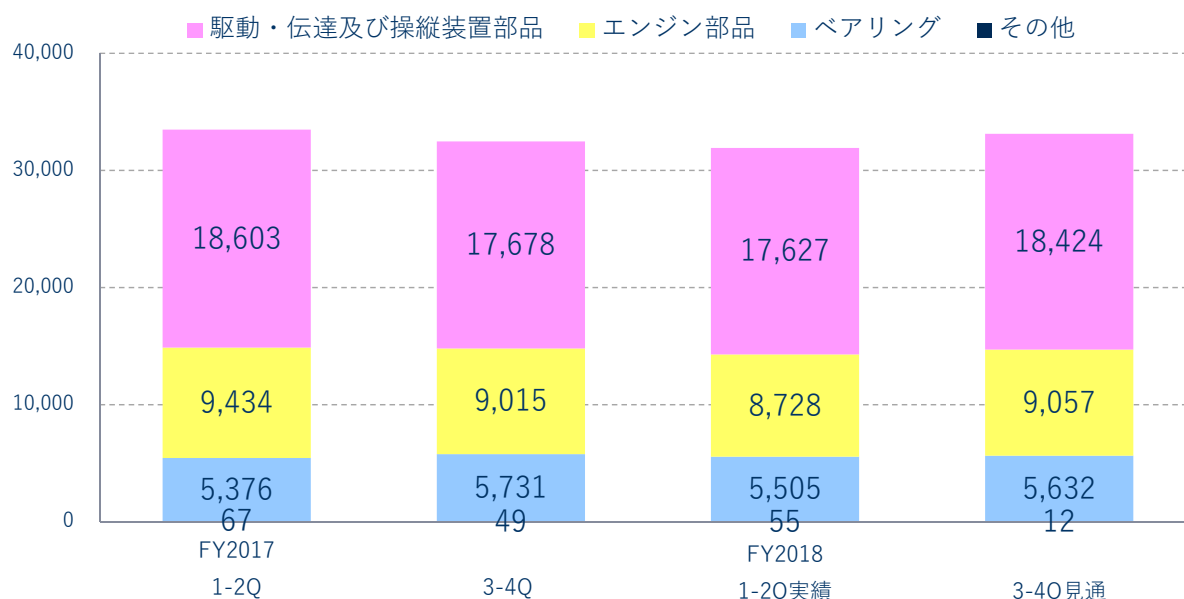


-11-

売上高の品目分類別計画 (半期毎)



(単位：百万円)



駆動系では、欧州向け新車用のユニバーサルジョイントや、韓国の新車用バルブスプールの販売増加を見込む。エンジン部品は、中南米などでの補修用ウォーターポンプの販売回復を見込む。ベアリングは、主に韓国からの海外への輸出増加を見込む。

-12-

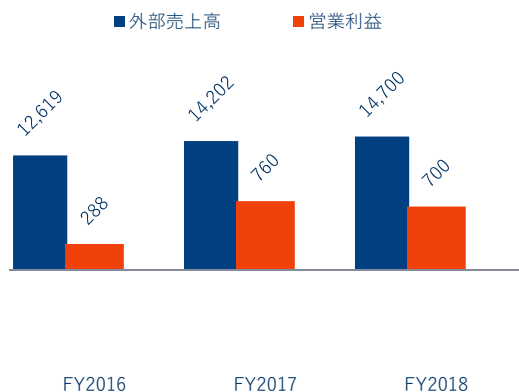
セグメント計画① 日本・米国



※セグメントはグループ各社の所在地による

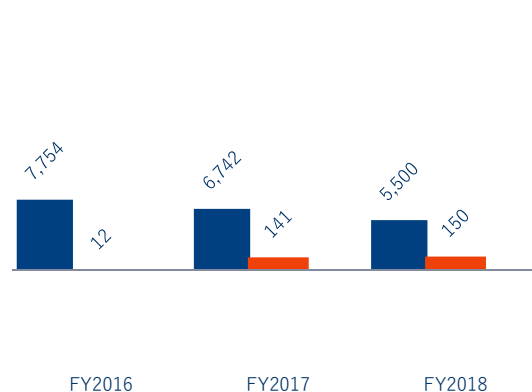
(単位：百万円)

日 本



ユニバーサルジョイントは下期も販売を牽引。また、円高ユーロ安の影響や経費増加により、減益を見込む。

米 国



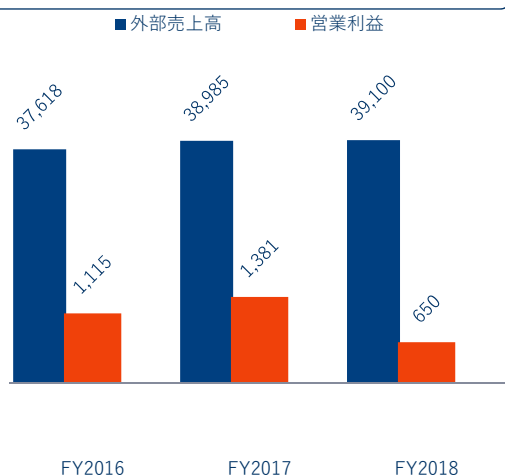
主として大口からの受注減少により、減収を見込む一方で、利益面では、人件費や販売管理費用などを見直すことにより、増益を見込む。

セグメント計画② 韓国・中国



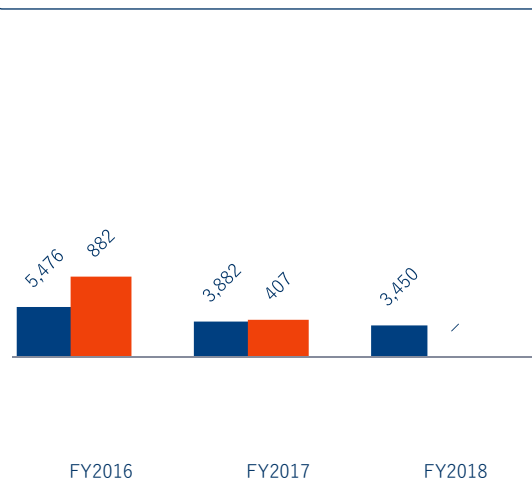
(単位：百万円)

韓 国



主要取引先の新車販売が落ち込んだ影響を、電動ウォーターポンプなどの販売増加で補い、増収を見込む。一方で、想定以上の人件費増加もあり、コストダウン努力で一部吸収しつつも、減益を見込む。

中 国



主要取引先の中国国内の新車販売減少し、減収見込み。また、下期のドル高元安傾向は利益押上げ要因となるものの、生産量の減少や人件費など固定費増加の影響が大きく、減益を見込む。

セグメント計画③ タイ・欧州

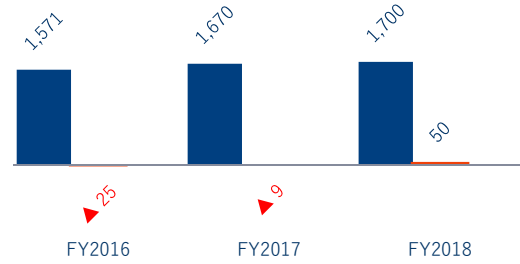
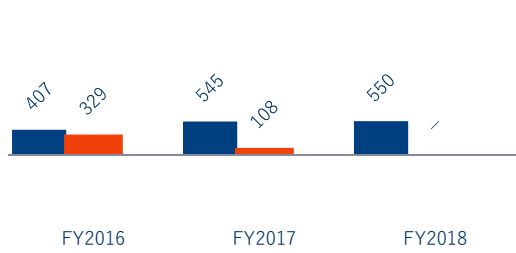


(単位：百万円)

タイ

欧州

■ 外部売上高 ■ 営業利益



売上高は横ばいを見込む。利益面では、メインの日本向け円建輸出取引における円安パーツ高の影響による採算が悪化し、減益を見込む。

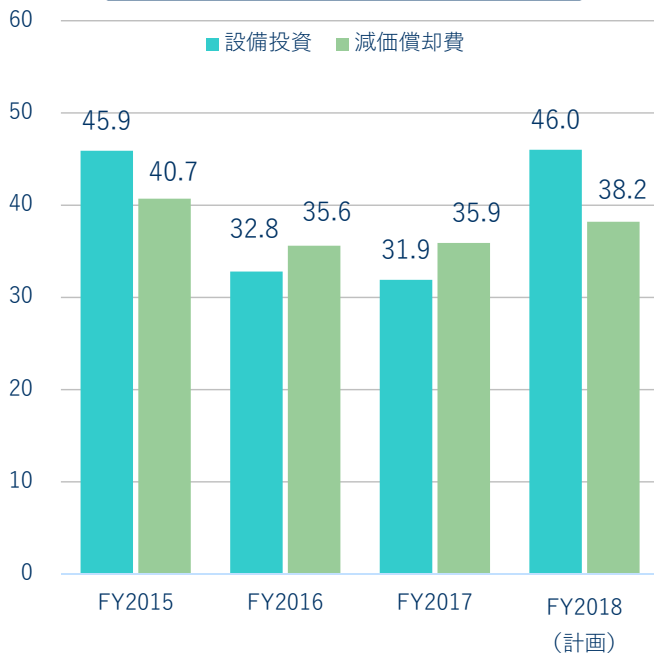
売上高は、横ばいを見込む。ルーマニア工場では引き続き部品の現地調達などのコスト改善により、採算改善を見込む。ロシア工場では、為替要因による減益を想定するものの、黒字は確保する見込み。

設備投資・減価償却費



(単位：億円)

設備投資・減価償却費の推移



FY2018 設備投資計画の内訳

	投資額	主な内容
日本	7.5	増産・合理化
韓国	24.5	新規開発・合理化 増産 等
中国	11.5	増産・合理化・維持
タイ	1.0	増産・合理化
欧州	1.5	増産・合理化
計	46.0	

I. 2019年3月期実績

II. 2019年3月期計画

III. 今後の対応

不適切行為に対する再発防止策

原因と背景

- コンプライアンス意識の希薄さ
- 取締役間のコミュニケーション不足
- 不透明な意思決定過程
- 継続的チェックシステムの不十分性
- 品質保証部の脆弱性

※不適切行為の概要

ユニバーサルジョイント、ステアリングジョイントのニードルローラーについて、取引先と取り決めと異なる材質のものを、2005年以降、取引先の承認を得ることなく組付け、販売していた。
対象取引先国内外25社
直近売上高588百万円 (0.9%)



再発防止策

※ 3ヶ月毎に進捗状況をWebサイトに掲載

(1) 意識改革の推進

- a. 経営トップによるコンプライアンス宣言
- b. コンプライアンスマニュアルおよび行動指針の刷新
- c. 従業員のコンプライアンス教育・研修
- d. 快適で風通しの良い職場環境づくり

(2) 牽制の効く組織体制の再構築

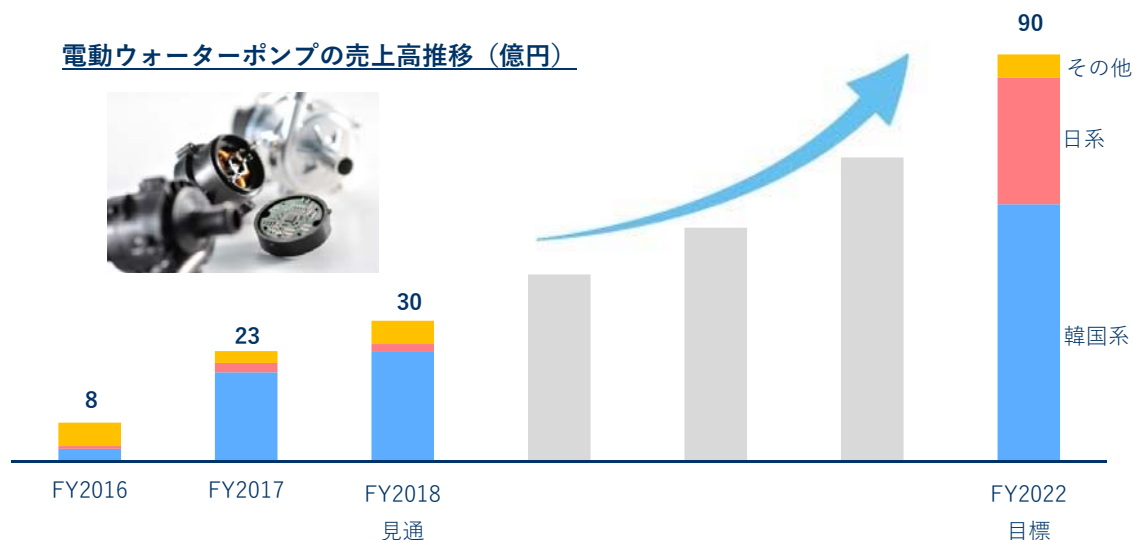
- a. 組織改革
 - コンプライアンス委員会の構成員および組織の再構築
 - 人事・報酬に関する任意の諮問委員会の見直しと活性化
 - 社外取締役の増員（次期定時株主総会までに人選を進める）
 - 経営会議の構成員の見直し
 - 取締役会の議論の活性化に向けた環境整備
 - 品質保証部の権限強化と人事ローテーションの実施
- b. 監査機能強化
 - 内部監査室および監査役会の補助者の増員
 - 取締役会、監査役会、内部監査室の間の情報連携強化
- c. 内部通報制度の活性化
 - 内部通報制度に関する規程類の見直し
 - 継続的な制度の社内周知
- d. 決裁権限に関する規程の見直しと決裁文書の作成・保管の徹底

(3) 品質システムの再点検と関連文書の見直し

電動ウォーターポンプの拡販&新規開発

- 2022年にグループ主力製品の売上規模に成長を見込む
- 制御装置の内製化など競争力強化に投資
- 日系取引強化と日本工場での量産ライン化も検討

電動ウォーターポンプの売上高推移（億円）



中期経営計画に向けて

FY2019~2021 3ヶ年中期経営計画策定中

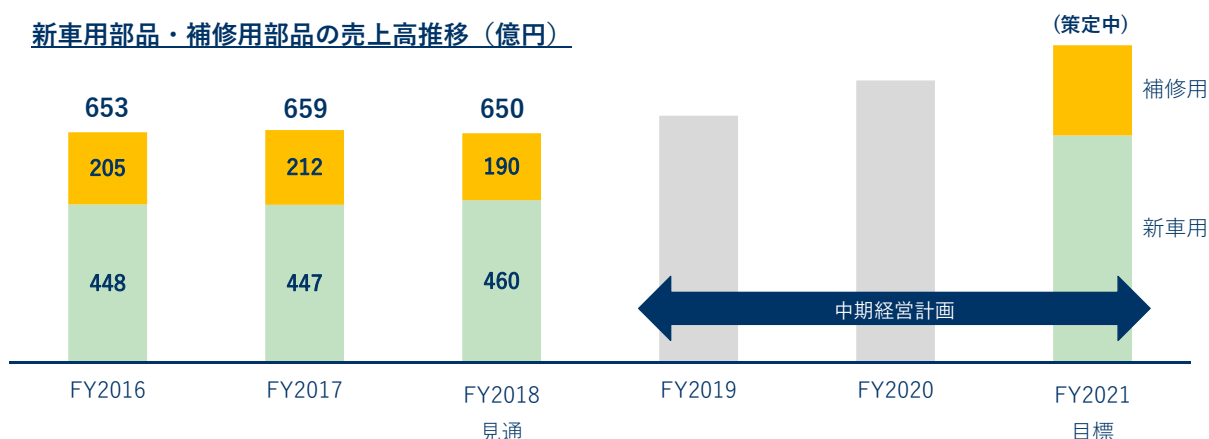
新車用部品

- ✓ ユニバーサルジョイント・等速ジョイントの生産能力拡充
- ✓ 電動ウォーターポンプの拡販&開発強化
- ✓ 新規顧客の開拓

補修用部品

- ✓ 既存製品の競争力強化・物流改善
- ✓ 取扱品目の拡大

新車用部品・補修用部品の売上高推移（億円）



- 将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 本資料および当社IRに関連するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

<お問い合わせ先>
GMB株式会社 経営管理室
電話 : 0745-44-1912
Email : ir@gmb.jp

GMB 株式会社

事業内容説明資料 (2018年3月期)

(証券コード : 7214)

<https://www.gmb.jp/>

注) 本資料中、当社の業績等に関わる数値は、表示桁数未満で切捨して記載しております。



目 次

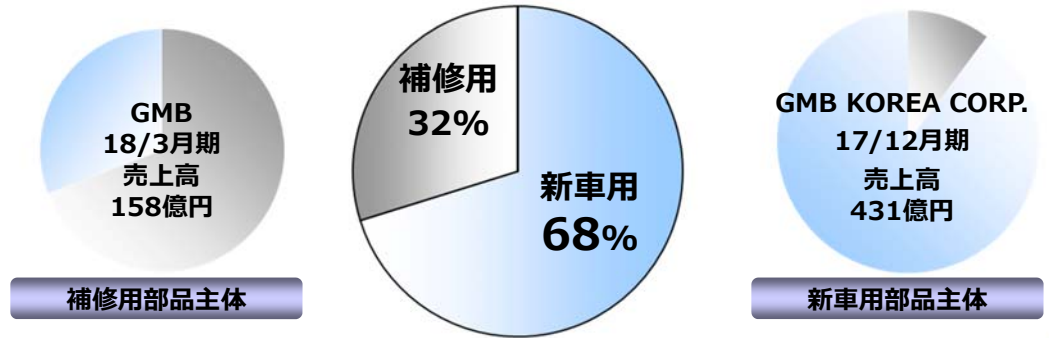
	ページ
GMBの概要	2
GMBの主要取扱製品	4
生産・販売ともにグローバルに展開	5
GMBの特徴	8



GMBグループの概要①

商号	: GMB株式会社	売上高	: 65,957 百万円 (単体 15,841 百万円)
創業	: 1943年 (昭和18年)	営業利益	: 2,783 百万円 (単体 630 百万円)
代表取締役会長	: 松岡 信夫	総資産	: 66,435 百万円 (単体 20,455 百万円)
代表取締役社長	: 松波 誠	純資産	: 31,801 百万円 (単体 12,769 百万円)
所在地	: 奈良県磯城郡川西町大字吐田150番地3		
事業内容	: ユニバーサルジョイント、ウォーターポンプなどの自動車部品製造・販売		
グループ会社	: 12社 / 韓国③ (6工場・研究所)、米国① (2拠点)、中国④ (3工場・2拠点)、タイ② (2工場)、ロシア①、ルーマニア①		
従業員	: 2,651名 (単体 339名)		

日韓GMBを主体に補修用部品と新車用部品に取組む独立系自動車部品メーカー



GMBグループの概要②

GMB RUS TOGLIATTI LLC (ロシア)
GMB ROMANIA AUTO INDUSTRY S.R.L. (ルーマニア)
青島吉明美汽车配件有限公司 (中国)
青島吉明美机械制造有限公司 (中国)
GMB KOREA CORP. (韓国)
AG TECH CORP. (韓国)
GMB ELPIS CORP. (韓国)
GMB NORTH AMERICA INC. (米国)
吉明美汽配 (南通) 有限公司 (中国)
吉明美 (杭州) 汽配有限公司 (中国)
THAI GMB INDUSTRY CO.,LTD. (タイ)
THAI KYOWA GMB CO.,LTD. (タイ)
GMB (奈良・大阪)

1943 (昭和 18) 年 : 大阪市生野区で「松岡精工所」創業
 1962 (昭和 37) 年 : 株式会社浪速精密工業所設立
 1976 (昭和 51) 年 : 米国子会社設立
 1979 (昭和 54) 年 : 韓国子会社設立
 1983 (昭和 58) 年 : 奈良工場 (現本社) 建設
 1989 (平成 元) 年 : GMBに社名変更
 1996 (平成 8) 年 : 中国子会社 (青島GMB) 設立
 2001 (平成 13) 年 : タイ子会社設立
 2004 (平成 16) 年 : 大証二部上場
 2006 (平成 18) 年 : 中国子会社 (即墨GMB) 設立
 2009 (平成 21) 年 : タイ関連会社 (TKG) 設立
 2012 (平成 24) 年 : 韓国子会社が韓国証券取引所上場
 2013 (平成 25) 年 : 中国子会社 (杭州GMB) 設立
 2013 (平成 25) 年 : 韓国子会社 (AG TECH) 設立
 2013 (平成 25) 年 : 中国子会社 (南通GMB) 設立
 2014 (平成 26) 年 : ロシア子会社設立
 2014 (平成 26) 年 : ルーマニア子会社設立
 2017 (平成 29) 年 : 韓国子会社 (GMB ELPIS) 設立



GMBの主要取扱製品

駆動・伝達・操縦装置用部品：売上構成比 55%

⊕ユニバーサルジョイント



⊕等速ジョイント



⊕バルブスプール



⊕サスペンション部品



注) 構成比は
2018/3月期

エンジン部品：売上構成比 28%

⊕ファンクラッチ



⊕ウォーターポンプ



⊕電動ウォーターポンプ



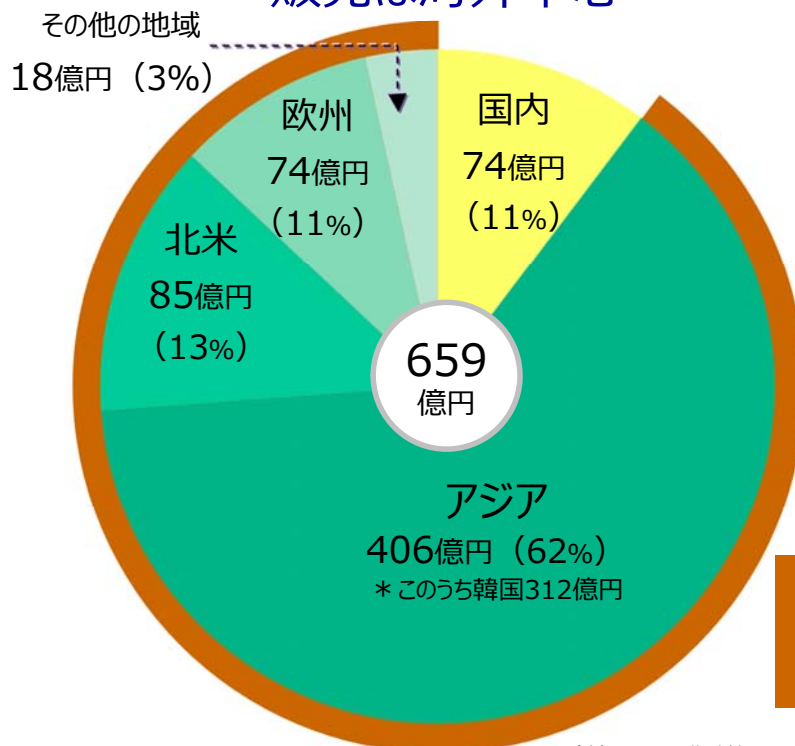
ベアリング他：売上構成比 17%

⊕テンショナー&アイドラー・産業用



生産・販売ともにグローバルに展開 ①

販売は海外中心



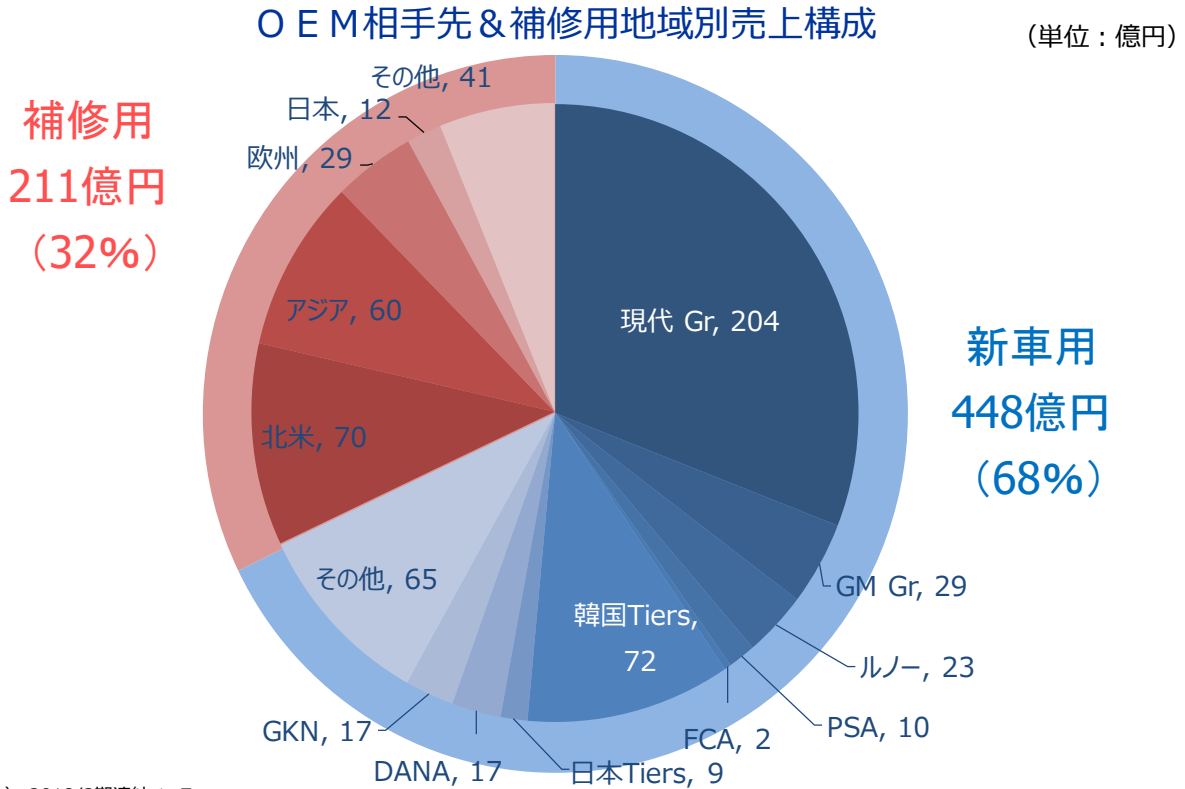
海外売上高

89%

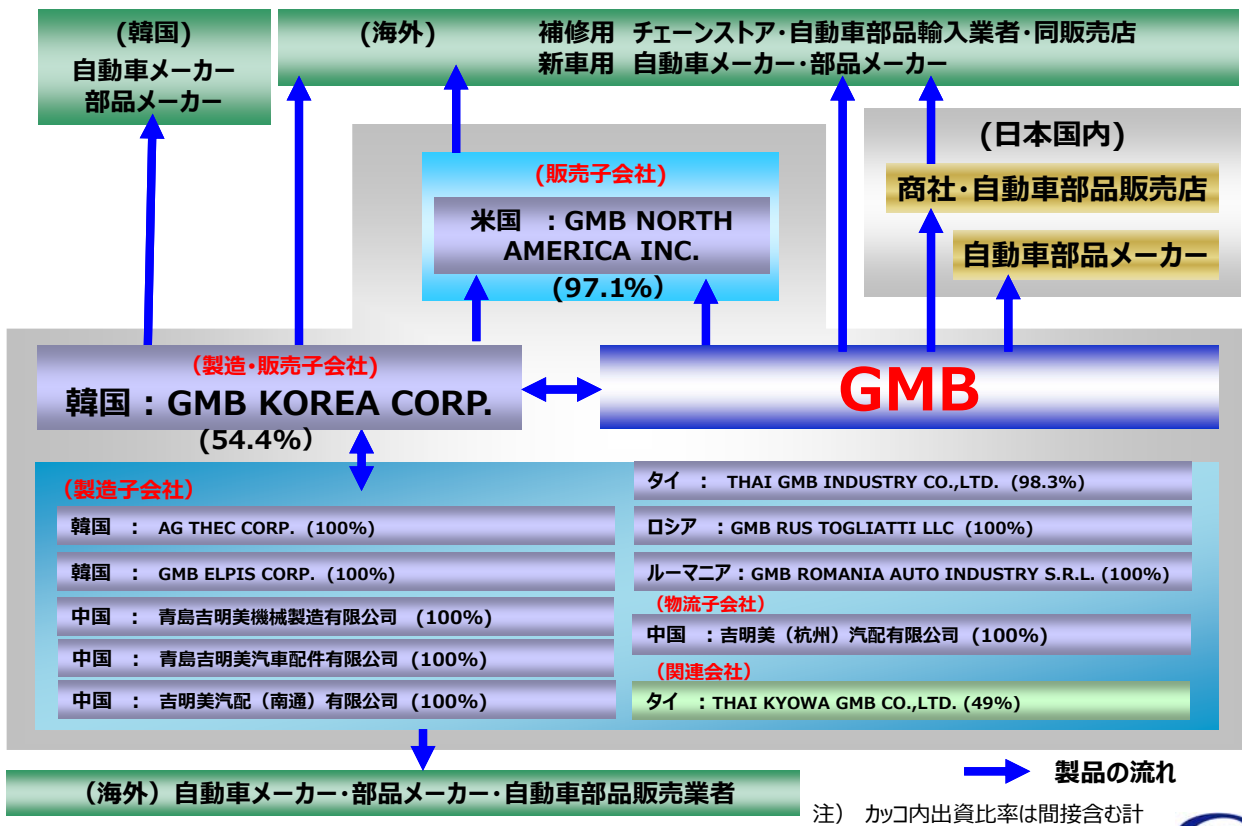
(注) 2018/3期連結ベース、括弧内は構成比



生産・販売ともにグローバルに展開 ②



生産・販売ともにグローバルに展開 ③



特徴① 海外補修用市場でブランド確立

海外市場

年間走行距離も長く、クルマは壊れることが当たり前
 簡単な部品交換はDIY（自分で修理する）ユーザーも少なくない
 道路や水質など使用環境の苛酷な途上国では交換需要はさらに増加
 日本車は完成車メーカーの海外展開と中古車輸出で増加



いち早く海外市場へ目を向け市場を開拓・ブランド確立



海外顧客向け弊社「News Letter」

【参考】 補修用部品の交換需要関連データ

	乗用車 保有台数 (万台)	年平均 走行距離 (km)	車齢10年 を超える 保有数	平均車齢 (年)
日本	4,206	9,896	13%	5.84
米国	18,319	18,870	40%	8.30
フランス	2,748	14,100	30%	7.50

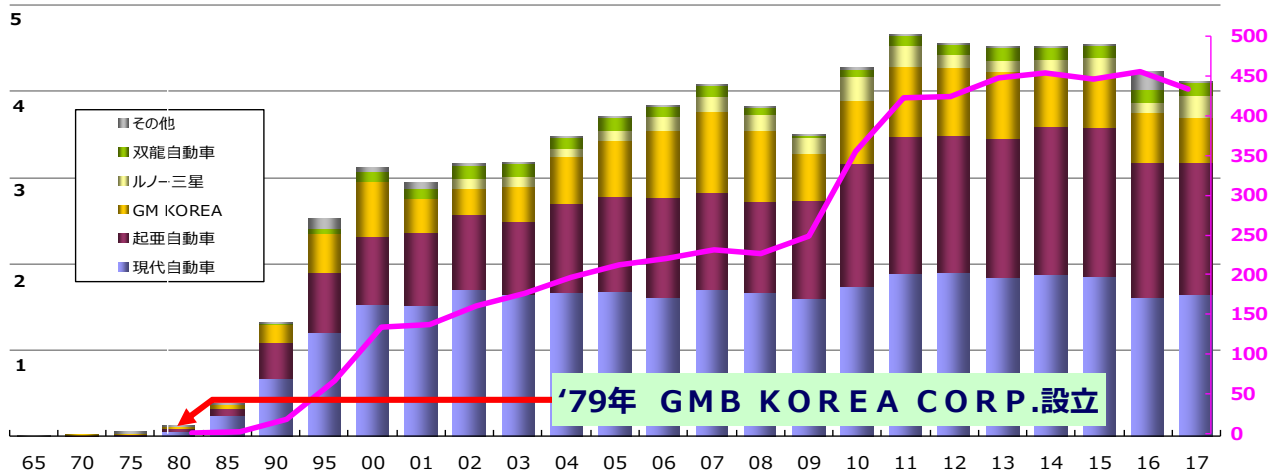
2002年3月JETRO「対日アクセス実態調査報告書（補修用自動車部品）」より



特徴② 現代・起亜自動車とのつながり

- 韓国自動車黎明期の1979年に進出し国産化に貢献
- 現代自動車グループへの売上高比率32%（18年3月期）
- 韓国車は米国・新興国を中心に海外市場で販売拡大

(単位：百万台) 韓国自動車生産台数（棒グラフ）と GMB KOREA CORP. の売上高（折れ線グラフ）の推移 (単位：10億W)



(出所) 韓国自動車工業協会、日本自動車工業会「世界自動車統計年報」

